

# 「横補剛」の文章問題攻略

出題頻度の高い過去問を理解

- ・横補剛数と梁の強度との関係(過去問を抜粋)

- ・令和2年～平成22年で4回出題

H形鋼断面梁の変形能力の確保において、梁の長さ、断面の形状・寸法が同じであれば、等間隔に設置する横補剛の必要箇所数は、梁材が「SN490材の場合」より「SS400材の場合」のほうが少ない

- ・平成22年 正しい選択肢として出題

H形鋼を用いた梁に均等間隔で横補剛材を設置して保有耐力横補剛とする場合において、梁をSN400B材から同一断面のSN490B材に変更したので、横補剛の数を減らした。

- ・令和1年、平成28年、平成25年 不適当な選択肢として出題

- ・横補剛材に必要な強度、剛性(過去問を抜粋)

- ・令和2年～平成22年で4回出題

梁の横座屈を防止するための横補剛材は、強度だけではなく、十分な剛性を有する必要がある。

- ・平成30年、平成24年 正しい選択肢として出題

圧縮材の中間支点の横補剛材は、許容応力度設計による場合、圧縮材に作用する圧縮力の2%以上の集中力が加わるものとして設計する。

- ・令和1年、平成27年 正しい選択肢として出題

- ・横補剛材を設ける位置(過去問を抜粋)

- ・令和2年～平成22年で3回出題

梁の横座屈を防止するための横補剛には、「梁全長にわたって均等間隔で横補剛する方法」、「主として梁端部に近い部分を横補剛する方法」等がある。

- ・平成30年、平成29年、平成24年 正しい選択肢として出題